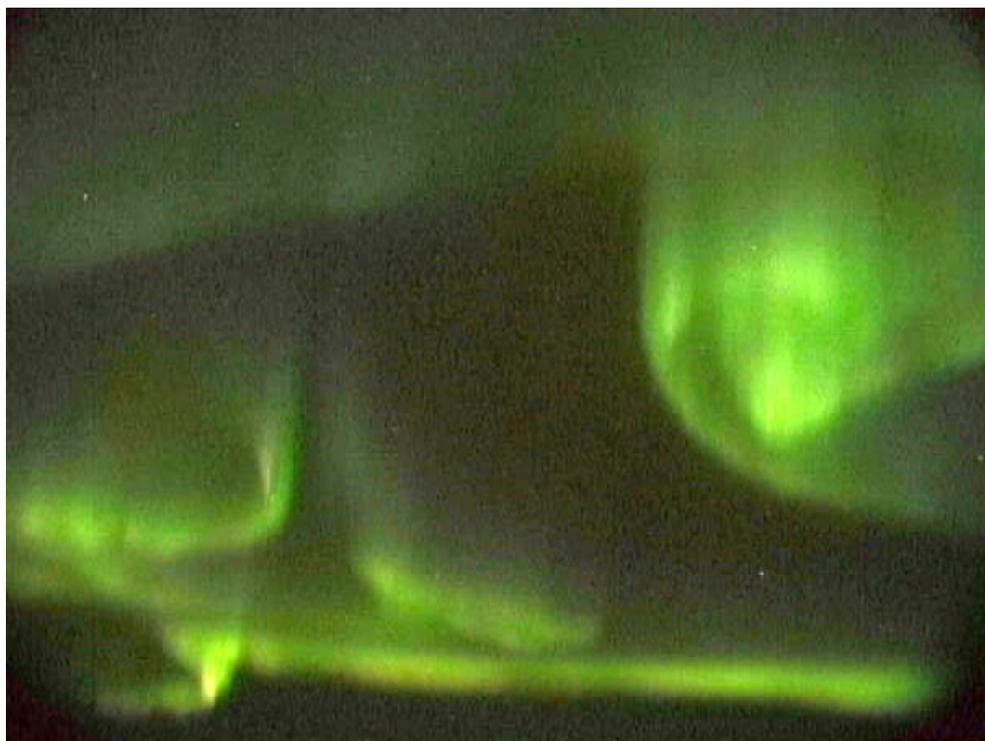


# PLEIADES



オーロラ 撮影：生田 盛 解説は3ページ

## 札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

### 役員改選

編集局

札幌天文同好会は創立50年を迎え、新しい半世紀に向かって、さらなる発展を期するため、会長・事務局長が勇退いたしました。

1月7日に行われた2006年総会で改選された役員は、次のとおりです。

会 長 : 柴田健一 (会報編集)  
事務局長 : 中山 正 (例会司会)  
幹 事 : 西野 浩 (啓蒙・普及)  
幹 事 : 越後恵子・生田 盛 (会計)  
幹 事 : 生田 盛 (会報印刷発送)

会計監査 : 後藤榮雄

幹事 (会報編集) より

会報のスタイルは2000年12月 (NO.136) へ回帰します。従って、タイトルも「札天ニュース」から「PLEIADES」に戻し、月刊となりますので、原稿は随時お寄せください。また、例会での発表に使用した資料を、編集幹事までお願いします。メディアは、MO以外であれば何でも結構です。Eメールによる原稿は、「pleiades@mb.snowman.ne.jp」へ送信してください。



会報「PLEIADES」を編集する柴田会長

2月例会では会報の印刷について話し合われました。現在は生田さんのインクジェットプリンターで印刷しています。印刷枚数が多くなることから、ページプリンターの購入を検討することになりました。

## 2月例会 出席者の一言

後藤榮雄：2日の北海道新聞に「昨年、NASAが第十惑星だといって発表した天体の直径が3000Kmあり、冥王星（直径2390 km）より大きいということが分かった」という記事がありました。この惑星は、小惑星でいわゆる大惑星ではないという意見もあり、これからどうなるのか楽しみです。論争が起きるのは冥王星自体も小惑星（カイパーベルト天体）だという意見もあるように、惑星、小惑星の区分が曖昧なためではないでしょうか。冥王星は岩石と氷からなる核を氷が包んでいるといえます。冥王星は大きさも小さく、彗星の核が集まって分化（密度によって分離）したような天体です。8～10m級の望遠鏡が沢山存在する時代に相応しい新しい定義で、太陽系を区分しなおすことも必要ではないでしょうか。

生田 盛：1月24日から1月29日まで、アラスカフェアバンク스에オーロラの撮影に行ってきた。3度目の正直というか、4夜中1夜「マァーマァーのオーロラ」を撮影することができました。気温は-40～-50 でビデオ撮影には極めて過酷な環境です。昨年フィンランド（-40）の経験を生

かして、ビデオカメラ2台並列方式で撮影したのが正解でした。延べ1.5時間撮影しましたが、今日ご覧に入れたのは未編集です。編集が完了した時点で、再度みなさんに見ていただきたいと思っています。

中山 正：今年は雪が多く除雪の仕事が忙しく星を見ていません。

雑誌「ニュートン」のモニターは結局昨年一年間やってしまいました。今年も引き受けます。

西野 浩：昨年の私の誕生日に東京の娘二人から、セガのプラネタリウムをプレゼントされました。せっかくのプレゼントですが、星は生の「星光」見ることで、少し戸惑いを感じました。娘は自分の部屋で、癒し効果を期待して見ているそうです。このプラネタリウムは大平さんの指導のもとに作られたもので、一万個の投影が可能ということでした。ムーンライトウォッチングの練習用として使います。

柴田健一：また、会報編集を引き受けることになりました。よろしくお祈りします。

## 極光・オーロラ

生田 盛

今年1月下旬にオーロラを見にアラス・フェアバンクスに行ってきた。

今回で3回目の挑戦でしたが、「三度目の正直」ようやく素晴らしいオーロラに出会うことができました。

当日、フェアバンクス市内は-47の厳寒。観測地は郊外の標高600mスキー場で満天星でし

た。午後11時、北側の一角に小さな雲状のオーロラが現れたかと思うとたちまち左右100度に広がり、1時頃には全天がオーロラに包まれました。その妖しい美しさは喩えようがありません。

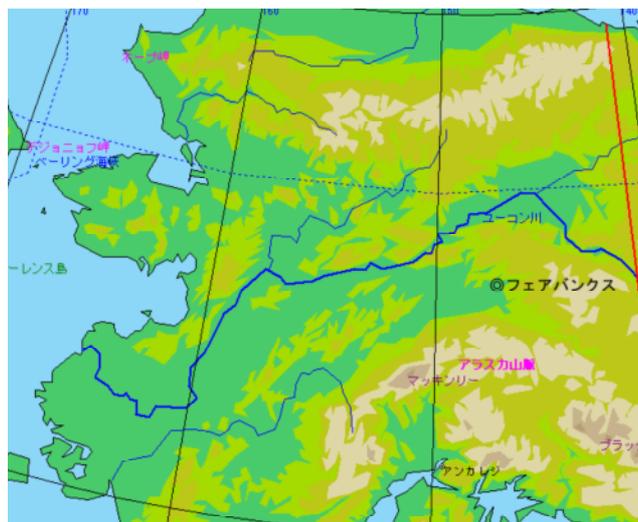
オーロラショーは約4時間続き、北海道生れの私も全く経験のない極寒の中でオーロラの観望を楽しみビデオ撮影を行いました。夢中でしたので

寒さは感じませんでした。

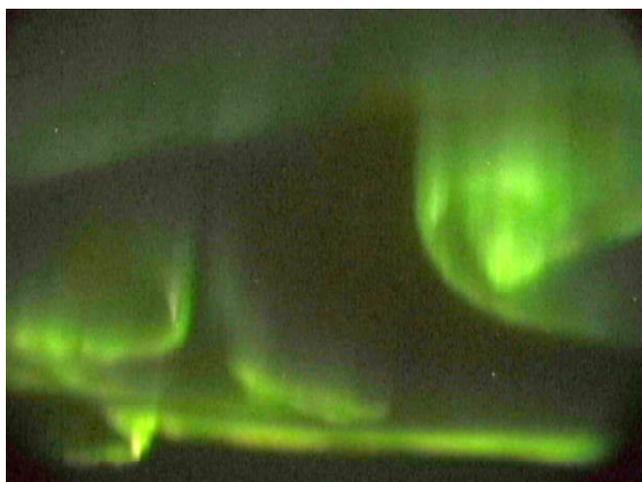
現地オーロラガイドは、この日のオーロラは色が見えないので、10点満点で5点だと言います。何とか10点満点のオーロラを見たいものだと、4度目の挑戦を企んでおります。



オーロラの解説をする生田さん



1月24日から4夜連続快晴に恵まれた  
アラスカ州フェアバンクスは、成田からの直行便がある



ビデオはカラーで4.5等級位まで写っている



背景は北の空に架かる「はくちょう座」

高感度改造をしたビデオカメラ（9dBUP+1/4秒）での撮影 対角60°

## 星ウオッチング発表会 in 層雲峡

編集局

北海道天体観測者会議（実行委員長 佐野康男）が開催する標記発表会が2月11～12日、層雲峡の「かんぼの宿」で開催されました。今年は、札幌から離れて旭川方面でとのことで、層雲峡を選定しました。旭川から、日本流星研究会の野勢國雄氏、上富良野町から北海道教育大学旭川校の中西靖男氏が参加されました。プログラムに余裕がありましたので、層雲峡温泉街で開催されている「氷瀑まつり」の花火大会をツアーで鑑賞するなど、近年にないユニークな集会になりました。その後ホテルへ戻り、深夜まで発表と懇談が続き、有意義で楽しい天文一夜を過ごしました。当会からの参加者は、中山・柴田の2名でした。詳細は次号にてお知らせします。



スターウォーズのテーマソングによって打ち上げられる花火



地元、旭川出身の野勢氏も寒そう

層雲峡温泉水瀑まつりツアーより

## 編集後記

柴田 健一

六年振りに会報を「札幌ニユース」から「プレアデス」へ戻しました。六年前は白黒印刷でしたが、今回からはカラーとしました。しかし、二十ページあったポリリウムは、四ページとします。

大切なことは、活動をタイムリーに会員へ伝えることです。また、当会の活動に止まらず、道内の天文の情報を織り込めば、会報を交換している他のサークル活動にも役立つので、「北海道星ウォッチング発表会」や「星見人の会」の様子も、お知らせして行きたいと考えています。これらの集会に参加された方は、その様子を投稿してください。基本は会員からの投稿です。編集子は原稿の依頼や催促までしません。集まった原稿を編集することしか出来ません。一年に一人一編の積極的な投稿をお願いします。

ところで、六年前から見ると会員は減少し、例会の参加者は半分になりました。これは六年間の結果と言うより、五十年間の結果でもあります。環境の変化もありますが、会員一人一人のサークル活動に対する意識の現れであり、会の存亡にかかわる重要な問題です。  
現状を肯定しては、会の発展はありません。この会報が、現状を打破する一助になればと願っております。

### 3月例会のお知らせ

3月4日(土) 中央区民センター C会議室

発行：2006(平成18)年 2月20日 札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

事務局：〒007-0845 札幌市東区北45条東9丁目2-33 TEL：011-741-8830

中山 正

編集：柴田健一 印刷：生田 盛 発行部数：25

HP：<http://www2.snowman.ne.jp/~Shibata/>

郵便振替口座：02780-7-31295 名称：札幌天文同好会